

東洋紡綾の森

いきもの図鑑



目次

■はじめに

綾町はどんなところ	・ ・ ・	1
綾の森の成り立ち	・ ・ ・	3
綾の森の特徴	・ ・ ・	5
●綾の森の重要種	・ ・ ・	8
●植物	・ ・ ・	9
●爬虫類	・ ・ ・	29
●両生類	・ ・ ・	31
●猛禽類	・ ・ ・	33
●綾の森 地図	・ ・ ・	34

実際に綾の森で撮影された写真を使って図鑑を作りました。
森を訪れる機会があればぜひ探してみてください。

綾町はどんなところ？



綾町役場作成 綾町広域地図

綾町は、宮崎市から西へ20km、宮崎県のほぼ中央に位置しています。西部・北部・南西部は険しい九州中央山地に連なる山々が占めていますが、東部は開けて平野部となり、市街地や農地が広がっています。山間部では地形の影響で寒暖の差があるものの、丘陵地に囲まれた平野部は年間を通じて温暖な気候で、積雪がみられることはほとんどありません。

綾町は、面積の約80%を森林が占めています。その綾町の森林の中でも特徴的なのが照葉樹林です。照葉樹林は日本を含む東アジアで見られますが、世界的に見ると分布の範囲は狭く、また人間活動の影響により減少し、自然の照葉樹林は少なくなっています。

そんな照葉樹林が日本国内で最も広く存在しているのが綾町です。綾町の照葉樹林は原生的な状態で残されており、豊かな森林生態系が育まれています。

綾町では約半世紀にわたり、森を守り、自然と人が共生する地域づくりが進められてきました。官民あがての取組みは世界的に評価され、2012年、綾町の照葉樹林はユネスコエコパーク（生物圏保存地域）に登録されました。

[参考：綾町都市計画マスタープラン]

TOPIC 照葉樹林とは？

冬でも落葉しない常緑広葉樹の中でも、葉の表面のクチクラ層（角質の層）が発達した光沢の強い深緑色の葉を持っている木を「照葉樹」といいます。照葉樹にはシイ類やカシ類などのいわゆる「どんぐりの木」やツバキ類等があります。

そのような照葉樹によって主に構成されている森のことを「照葉樹林」といい、降雨量の多い亜熱帯から暖温帯に分布しています。

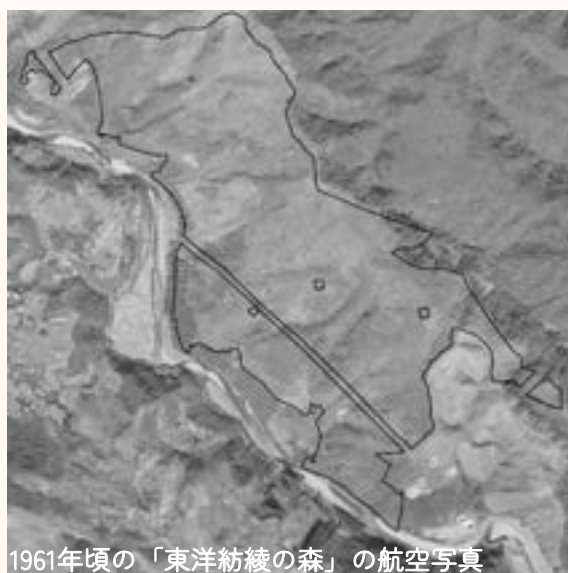


綾の森の代表的な照葉樹 イチイガン

綾の森の成り立ち

当社は化学繊維原料（木材パルプ）の国内自給を目的に、1950年代以降、マツなどが生える山林を購入し、社有林として管理してきました。その後、化学繊維事業の変化により原料供給の使命を終え、現在では木材生産を目的として、一部の山林のみを保有・管理しています。「東洋紡綾の森」も1971年より当社が所有している社有林の一つです。

「東洋紡綾の森」での木材生産は、主に南側のスギやヒノキの植林地で行われてきました。北側には旧所有者によってマツが植栽された記録がありますが、現在はシイ・カシ類（どんぐりの仲間）を中心とした照葉樹林が広がっています。これは、マツが枯れたのち、照葉樹林に自然に変化（植生遷移といいます）した結果と考えられます。また、木材生産に適さない肥沃ではない場所や急傾斜地は、自然のままに放置され、管理道の設置など最低限の管理のみが行われてきました。その結果、現在の「東洋紡綾の森」には、植林地とともに自然性の高い照葉樹林が形成されています。



1961年頃の「東洋紡綾の森」の航空写真

「東洋紡綾の森」の範囲（黒枠内）は、周辺の森と比べてのっぺりと写っており、当時は今のような森ではなく、草山のような環境だったと考えられます。

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」をもとに自社で作成
<https://maps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>

2023年5月には、国が進める「自然共生サイト」への登録申請を行い、同年10月に正式に認定されました。

山から里地にかけて、双方の環境を結ぶ立地にある「東洋紡綾の森」は、人々が地域の大切な自然と触れ合う場所にもなりえます。そこで、地元自治体である綾町と共に足並みをそろえた管理を進めていくために、2023年6月に綾町との包括連携協定を締結し、「東洋紡綾の森」の生物多様性保全に向けた取組みを共同で進めています。



自然共生サイト認定
30by30



環境省ネイチャーポジティブキャラクター
だいだらぽじー

綾の森の特徴



東洋紡綾の森 空撮写真

「東洋紡綾の森」は宮崎県綾町に位置する面積約135haの山林です。「綾ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）」や「綾森林生態系保護地域（林野庁）」、「九州中央山地国定公園綾地区」に指定されている、日本でも特に自然性の高い照葉樹林と隣接する地域にあります。

森の北側は植生遷移によって成立した自然性の高いシイ・カシ類の照葉樹林が広がっています。一方、森の南側は主にスギ・ヒノキの植林地が占め、木材生産を目的として今も林業が行われています。また、スギやヒノキを植栽して間もない範囲は、樹木が成長するまでの間、一時的に草地のような環境となっています。加えて、林業に適さない急傾斜地にパッチ状に照葉樹林が残存することで、樹林と草地が混在する多様な環境が創出されています。

当社は「東洋紡綾の森」にどのような生きものがあるかを把握するために、植物、哺乳類、鳥類（特に猛禽類）、爬虫類、両生類を対象とした調査を2022年から2024年にかけて実施しました。その結果、植物345種、哺乳類9種、爬虫類10種、両生類6種に加えて、猛禽類のクマタカなど、多種多様な生きものが生育・生息していることが分かりました。また、これらの中には環境省や宮崎県のレッドリストに記載されている、希少な動植物種も含まれていました。

このように、“人の手による維持管理”と“自然にまかせた植生遷移”との両方によって、タイプの異なる環境が混在していることがこの森の特徴であり、多種多様な生きものがみられる理由です。



ガンゼキラン



クマタカ

図鑑の見方

種名を掲載しています。

マツバラシ

カテゴリー(ランク)を示しています。



準絶滅危惧 絶滅危惧 絶滅

環境省RL2025: NT
宮崎県RL2020: VU-r

東洋紡綾の森で実際に撮影した写真を掲載しています。



形態・生態等

- ・ 地上部が松の葉のような形状をした、ラン科に似た植物。
- ・ 地上生/着生(樹幹・樹上・木生シダ上)/岩上生
- ・ 逸出個体と野生個体との区別が困難な場合がある。

いきものの生態等を紹介しています。

分布

本州(宮城県以南)・四国・九州・琉球列島・小笠原諸島。
他に南千島国後島の地熱地帯にも産することが最近報告されている。

引用文献

『日本産シダ植物標本図鑑1』(学研、平成28年)

引用した文献を記載しています。

いきものの日本国内における分布を記しています。

これまでに発見された重要種

	科名	種名	種の保存法	環境省 RL	宮崎県 RL2022	宮崎県保護条例
植物						
1	マツバラン	マツバラン		NT	VU-r	
2	イノモトソウ	ヤワラハチジョウシダ		VU	VU-r	
3		ヒカゲアマクサシダ		EN	EN-r	
4		モエジマシダ			EN-r	
5	ヒナノシャクジョウ	キリシマシャクジョウ		VU	EN-g	
6	ホンゴウソウ	ホンゴウソウ		NT	CR-r	
7		ウエマツソウ		VU	CR-r	
8	ラン	エビネ		NT	NT-g	
9		ナギラン		VU	VU-g	
10		フウラン		NT	VU-g	希少
11		ムカゴサイシン		NT	CR-r	
12		ムカゴトンボ		EN	CR-r	
13		ガンゼキラン		VU	VU-r	希少
14	アワブキ	アオカズラ		EN	NT-r	
15	ベンケイソウ	ミツバベンケイソウ			VU-r	
16	アジサイ	ヒュウガアジサイ		VU	VU-g	
17	リンドウ	センブリ			NT-g	
18	シソ	ミゾコウジュ		NT	NT-g	
19	キク	マルバテイショウソウ		VU	NT-g	
20		イズハハコ		NT		
爬虫類						
1	タカチホヘビ	タカチホヘビ			DD-2	
2	ナミヘビ	シロマダラ			DD-2	
両生類						
1	イモリ	アカハライモリ		NT		
2	ヒキガエル	ニホンヒキガエル			NT-g	
猛禽類						
1	タカ	クマタカ	国内	EN	VU-g	

マツバラシ

環境省RL2025：NT

宮崎県RL2020：VU-r



形態・生態等

- 地上部が松の葉のような形状をした、ラン科に似た植物。
- 地上生（岩や樹皮の上ではなく、土壤に生えること）、着生（樹木にくっついて生えること）または岩上生（岩の上にくっついて生えること）。
- 逸出（栽培下から逃げ出すこと） 個体と野生個体との区別が困難な場合がある。

分布

本州(宮城県以南)・四国・九州・琉球・小笠原諸島に分布する。他に南千島国後島の地熱地帯にも産することが最近報告されている。

[引用文献]

「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」(学研、2016)

ヤワラハチジョウシダ

環境省RL2025：VU

宮崎県RL2020：VU-r



形態・生態等

- 葉が柔らかいハチジョウシダの仲間。
- 地上生（岩や樹皮の上ではなく、土壤に生えること）。
- 狭義のヤワラハチジョウシダは羽片数が少なく、葉身が短く、葉質が柔らかい型。

分布

本州(神奈川県・紀伊半島)・四国(徳島県・高知県)・九州・琉球(トカラ列島以北)に分布する。

[引用文献]

「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」(学研、2016)

ヒカゲアマクサシダ

環境省RL2025：EN

宮崎県RL2020：EN-r



形態・生態等

- 山地の森林の中や日陰に生える、常緑性のシダ植物。
- 地上生（岩や樹皮の上ではなく、土壤に生える）。
- 葉柄や葉軸が赤褐色で、光沢が強いなどの特徴がある。

[引用文献]

「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」(学研、2016)
「九州のシダ植物検索図鑑」(南方新社、令和4年)

分布

本州(三重県)・四国(高知県)・九州(長崎県福江島・宮崎県・鹿児島県)・屋久島・種子島に分布する。

モエジマシダ

宮崎県RL2020：EN-r



形態・生態等

- 岩上生(石垣の隙間などに生える)または地上生（岩や樹皮の上ではなく、土壌に生える）。
- 熱帯性の雑草的なシダの一つで、日本では暖地に自生している他、温室などにも繁茂する。
- 徐々に分布が北上していることが報告されているが、温室などからの逸出も多いものと推定される。
- ヒ素を吸収する能力を持つことが知られている。

[引用文献]

「日本産シダ植物標準図鑑Ⅰ」(学研、2016)

分布

本州(神奈川県・愛知県・紀伊半島)・四国・九州・琉球に分布する。
国内の分布が徐々に北上している。

キシマシャクジョウ

環境省RL2025：VU

宮崎県RL2020：EN-g



形態・生態等

- 常緑樹林の下に生える多年草。
- 光合成を行わず、共生菌から栄養を得る（菌従属栄養植物）。
- 全体が白色。茎は糸状で、高さ5～14cm、数個の鱗片葉を散生する。
- 花期は9～10月、花は長さ4～5mmで、3～8個が集まる。

[引用文献]

「改訂新版 日本の野生植物1」（平凡社、2015）

「原色日本植物図鑑（草本編3）」（保育社、1964）

分布

伊豆七島・四国(愛媛県・高知県)・九州・奄美大島・沖縄島に分布する。

ホンゴウソウ

環境省RL2025：NT

宮崎県RL2020：CR-r



形態・生態等

- 暗い林の下の落ち葉の間に生える多年草。
- 光合成を行わず、共生菌から栄養を得る（菌従属栄養植物）。
- 地上茎の高さは3～13cm、極めて細く、径0.5mm以下。
- 葉は鱗片状で狭卵形、長さ約1.5mm、茎とともに紫褐色をしている。
- 花期は7～10月、長さ0.5～2cmで、4～15個の花をつける。

[引用文献]

「改訂新版 日本の野生植物1」（平凡社、2015）

分布

本州(宮城県・栃木県・新潟県以西)～琉球に分布する。

ウエマツソウ

環境省RL2025：VU

宮崎県RL2020：CR-r



形態・生態等

- 林の下の落ち葉の間に生える多年草。
- 光合成を行わず、共生菌から栄養を得る（菌従属栄養植物）。
- 地上部は全体に赤紫色をおび、茎は高さ6～10cm、径約0.8mmでほとんど分岐しない。
- 花期は7～9月で、3～9個の花をつける。

分布

本州(新潟・和歌山県以西)・四国・九州・琉球(沖縄島、西表島)・伊豆諸島～小笠原に分布する。

[引用文献]

「改訂新版 日本の野生植物1」（平凡社、2015）

エビネ

環境省RL2025：NT

宮崎県RL2020：NT-g



形態・生態等

- 主に暖温帯の林の下に生育する多年草。
- 球茎は球状。葉は2～3個ついて、長さ15～25cm、幅5～8cm、先端はとがる。
- 花期は4～5月、ややまばらに8～15個の花をつける。花色には様々な変化がある。

分布

北海道西南部～琉球に分布する。

[引用文献]

「改訂新版 日本の野生植物1」（平凡社、2015）

ナギラン

環境省RL2025：VU

宮崎県RL2020：VU-g



形態・生態等

- 暖温帯の常緑広葉樹林の下に生える多年草。
- 茎は円柱状、数個の鱗片葉と1～3個の葉をつける。
- 花期は6～7月、白色でわずかに淡紫褐色をおびる2～4個の花をまばらにつける。

分布

本州(関東南部以西)～琉球に分布する。

[引用文献]

「改訂新版 日本の野生植物1」(平凡社、2015)

フウラン

宮崎県保護条例：希少

環境省RL2025：NT

宮崎県RL2020：VU-g



形態・生態等

- 暖温帯～亜熱帯の木の幹や岩の上に生える多年草。
- 根は長く伸びる。
- 葉は革質でかたく、湾曲し、長さ5～10cm、幅7～8mm、断面はV字形で背面に鋭く尖った筋がある。
- 花期は6～7月、白色の3～10個の花を総状につける。

分布

本州(関東南部以西)～琉球に分布する。

[引用文献]

「改訂新版 日本の野生植物1」(平凡社、2015)

ムカゴサイシン

環境省RL2025：NT

宮崎県RL2020：CR-r



形態・生態等

- 暖温帯の林の下の土壤に生える多年草。
- 地下の球茎からシュート（芽）を伸ばし、まず開花し、その後葉を生じる。
- 葉はやや厚く、角ばった心円形で長さ幅ともに3～5cm、7～9本の掌状脈と縦じわがある。
- 花期は5～6月で、花茎は帯紫色、高さ約10cm、まばらに2～3個の膜質の鞘状葉と1個の花をつける。

[引用文献]

「改訂新版 日本の野生植物1」（平凡社、2015）

分布

本州(関東地方以西)・四国・九州・琉球に分布する。

ムカゴトンボ

環境省RL2025：EN

宮崎県RL2020：CR-r



形態・生態等

- 暖温帯の日当たりの良い湿った草地や法面に生える多年草。
- 高さ20～50cm。葉は茎の下方に集まる傾向がある。
- 花期は9～10月で、やや多数の花をつける。

分布

本州(千葉県以西)・四国・九州・琉球(徳之島以北)に分布する。

[引用文献]

「改訂新版 日本の野生植物1」(平凡社、2015)

ガンゼキラン

環境省RL2025：VU

宮崎県RL2020：VU-r



形態・生態等

- 暖温帯～亜熱帯の常緑樹林の下の土壤に生えるの多年草。
- 茎は卵状円錐形で稜があり、長さ3～5cm。
- 葉は3～5個、狭長楕円形、長さ30～50cm、幅5～8cm。
- 花期は5～6月、ややまばらに5～18個の花をつける。

分布

本州(伊豆諸島・静岡県・紀伊半島)・四国・九州・琉球に分布する。

[引用文献]
「改訂新版 日本の野生植物1」(平凡社、2015)

アオカズラ

宮崎県保護条例：希少

環境省RL2025：EN

宮崎県RL2020：NT-r



形態・生態等

- ・ 山野の林の縁に生育する落葉藤本（木本のつる植物のこと）。
- ・ 枝は緑色で、若い枝には褐色の短毛がある。
- ・ 前年枝には葉柄の基部が木化して残り、先端が二叉に分かれたとげとなる。
- ・ 葉は枝にややまばらにつき、葉柄は長さ7～14mm、全縁または波状の微細な鋸歯がある。
- ・ 花期は3～4月、葉が出る前に、1～3個の花を葉の付け根から出す。

[引用文献]

「改訂新版 日本の野生植物1」（平凡社、2015）

分布

四国、九州に分布する。

ミツバベンケイソウ

宮崎県RL2020：VU-r



形態・生態等

- 岩の露出した林の中、林の縁、溪流沿いの岩上、川原などに生える多年草。
- 花茎は長さ20～80cm、直立(まれに斜上)する。
- 葉は長さ2～10mmの柄があり、3輪生まれに4～5輪生。
- 花期は8～9月である。

分布

南千島・北海道～九州に分布する。

[引用文献]

「改訂新版 日本の野生植物2」(平凡社、2016)

ヒュウガアジサイ

環境省RL2025：VU

宮崎県RL2020：VU-g



形態・生態等

- 山地の沢筋や川原の崖に生育する落葉低木。
- 高さ1～2mに達する。
- 枝は細い。
- 葉は無毛で、裏面の側脈腋のみに白色で滑らかな立毛を密生する。
- 葉柄や若枝も無毛。

分布

九州(宮崎県)に分布する。

[引用文献]

「改訂新版 日本の野生植物4」(平凡社、2017)

センブリ

■●●□□□□□
宮崎県RL2020：NT-g



形態・生態等

- 日当たりのよい山野に生える一年草または越年草（秋に芽生えて越冬し、翌年に開花・結実して枯れるもの）。
- 高さ5～20cm、茎は淡紫色をおびる。
- 花期は8～11月花冠は白色で5つに深く裂け、裂片は広披針形で紫脈がある。

分布

北海道西南部～九州に分布する。

[引用文献]

「改訂新版 日本の野生植物4」（平凡社、2017）

ミゾコウジュ

環境省RL2025：NT

宮崎県RL2020：NT-g



形態・生態等

- 湿った草地や泥地に生える越年草（秋に芽生えて越冬し、翌年に開花・結実して枯れるもの）。
- 葉は長楕円形で根出葉はロゼット状、長い柄があり、花時には枯れる。
- 茎は高さ30～70cm、四角形で直立し、下向きの細毛がある。
- 花は本土では5～6月、沖縄では4月に開き、花穂ははじめ短いのが、のちに長く伸びて8～10cmとなる。

分布

本州～琉球に分布する。

[引用文献]

「改訂新版 日本の野生植物4」（平凡社、2017）

マルバテイショウソウ

環境省RL2025：VU

宮崎県RL2020：NT-g



形態・生態等

- 林の下に生育する多年草で、茎は高さ45～60cm、密に褐色の毛がある。
- 葉は茎の中部より下に4～5枚が輪状につき、長柄があり、葉柄は長さ4～9cm、褐色の長い軟毛を密生し、葉身は卵形、長さ6～10cm、円頭、基部は深く心形、全縁であるか微凸があり、両面に密に褐色の毛がある。
- 花は11～12月に咲く。

分布

四国(高知県)、九州(宮崎県、熊本県、鹿児島県)に分布する。

[引用文献]
「改訂新版 日本の野生植物4」(平凡社、2017)

イズハハコ

環境省RL2025：NT



形態・生態等

- 日当たりのよい崖に生える一年草または越年草（秋に芽生えて越冬し、翌年に開花・結実して枯れるもの）。
- 全体に灰白色の軟毛が多い。
- 茎は高さ25～55cm。
- 葉は下部にややロゼット状に集まり、長楕円形で先は丸く、基部は有翼の葉柄となり、鈍鋸歯または歯牙があり、長さ5～13cm、幅1.2～4cm、両面に軟毛がある。
- 花は3～10月。

[引用文献]

「改訂新版 日本の野生植物4」（平凡社、2017）

分布

本州（関東地方以西）の海岸から四国・九州・琉球に分布する。

タカチホヘビ

宮崎県RL2020：DD-2



形態・生態等

- 全長30～60cm。成体の体色は紫がかった褐色で、鱗は立体的に丸く盛り上がりとても光沢がある。大型の個体は黄色味がかり、いずれも背中央部に黒色のラインが尾まである。幼体は全身が黒色をしている。
- 7～8月に3～13個の卵を産む。地中性でミミズなどを餌としている。
- 日本固有種。体を覆うウロコが他のヘビのように重ならず、皮膚が露出した部分もあるため乾燥に非常に弱い。
- 平地から山地の自然林や二次林の地中、溪流付近の湿った場所に多い。

[引用文献]

「三訂・宮崎県版レッドデータブック 宮崎県の保護上重要な野生生物」(宮崎県環境森林部自然環境課、令和4年)

分布

本州、四国、九州、その周辺の島々に分布する。
宮崎県内では全域に分布する。

シロマダラ

■□□□□□
宮崎県RL2020：DD-2



形態・生態等

- 全長30～70cm。成体の背面は灰色がかり、そこに黒色の横帯模様がある。幼体は成体より白黒のコントラストが強く首の部分に1対の白い斑紋がある。
- 6～8月に1～9個の卵を産む。夜行性でトカゲやヘビを餌としている。
- 日本固有種。生息環境は、平地から山地の森林や岩場。

[引用文献]

「三訂・宮崎県版レッドデータブック 宮崎県の保護上重要な野生生物」(宮崎県環境森林部自然環境課、令和4年)

分布

北海道、本州、四国、九州、その周辺の島々に分布する。
宮崎県内では全域に分布する。

アカハライモリ

環境省RL2020：NT



形態・生態等

- 全長70～140mm。四肢は長く、尾は平たい。背面は黒褐色で、腹面は赤色に黒色の斑紋がある。
- 求愛行動は4～7月と秋に行われる。卵は一粒ずつ、水草などに産み付けられる。幼生は水中生活を送ったあと、年内に変態するのが普通。その後は陸上で生活し、3歳で性的成熟して、水中に留まるようになると考えられている。
- 水田、池、溪流、溝などで生活する。

[引用文献]

「レッドデータブック2014 -日本の絶滅のおそれのある
野生生物-3(爬虫類・両生類)」(環境省、2014年)

分布

本州および四国、九州地方の低地から山地に分布する。

ニホンヒキガエル

宮崎県RL2020：NT-g



形態・生態等

- 全長80～180mm。体色は茶褐色で、全身に多数の隆起があり、ずんぐりとした体形をしている。
- 宮崎県内では12～翌2月に水路や池沼、水たまりに産卵する。卵嚢はひも状で、6,000～14,000卵が入っている。孵化したオタマジャクシは夏までに変態して上陸し、周囲の林の下で土壌動物などを餌として成長する。
- 生息環境は、平野部から山地までの幅広い環境。

[引用文献]

「三訂・宮崎県版レッドデータブック 宮崎県の保護上重要な野生生物」(宮崎県環境森林部自然環境課、令和4年)

分布

本州（近畿以西）、四国、九州、
奄岐、五島列島、屋久島、種子島。
宮崎県内では全域に分布する。

クマタカ

種の保存法：国内

環境省RL2020：EN

宮崎県RL2020：VU-g



形態・生態等

- 山地の森林に生息する。
- 樹林地帯の上空を翼を広げたまま気流に乗って旋回し、少しずつ位置を変えて、首をめぐらしつつ獲物を探す。餌は中・小型の哺乳類、中・大型の鳥類、ヘビ類など。
- 繁殖期は4～7月ごろ、一夫一妻で繁殖する。巣は大木の大枝の叉の上に枯れ枝を重ねてつくる。針葉樹の中層から上層部の幹寄りを使うことが多いが、枝先や樹頂につくることもある。1巣卵数は1～2個である。

[引用文献]

「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」(保育社、1995)

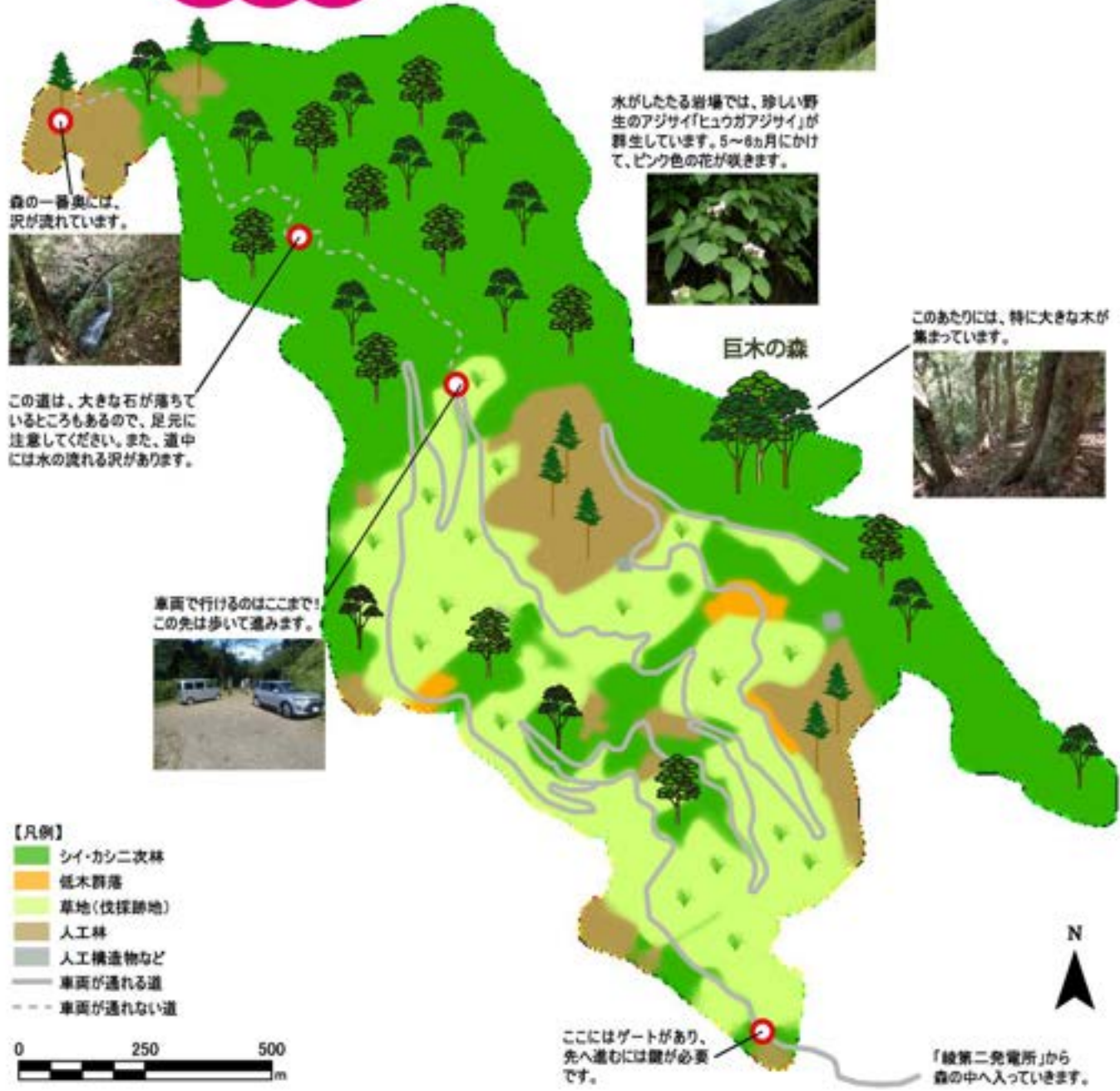
「決定版 日本の野鳥650」(平凡社、2014)

分布

留鳥として北海道、本州、四国、九州に分布する。

東洋紡綾の森

MAP



運が良ければクマタカを見
つけられるかもしれません。



水がしたたる岩場では、珍しい野
生のアジサイ「ヒュウガアジサイ」が
群生しています。5～6月につけて、
ピンク色の花が咲きます。



このあたりには、特に大きな木が
集まっています。



巨木の森

森の一番奥には、
沢が流れています。

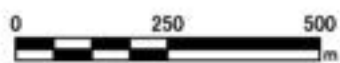


この道は、大きな石が落ちて
いるところもあるので、足元に
注意してください。また、道中
には水の流れる沢があります。

車でで行けるのはここまで！
この先は歩いて進みます。



- 【凡例】
- シイ・カシ二次林
 - 低木群落
 - 草地(伐採跡地)
 - 人工林
 - 人工構造物など
 - 車両が通れる道
 - - - 車両が通れない道



ここにはゲートがあり、
先へ進むには鍵が必要
です。

「綾第二発電所」から
森の中へ入っていきます。



参考情報：重要な種の選定基準

選定基準の名称	略称	カテゴリー
文化財保護法 (昭和25年法律第214号) 宮崎県文化財保護条例 (昭和31年宮崎県条例第15号)	文化財	国特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：宮崎県指定天然記念物
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (平成4年法律第75号)	種の保存法	国内：国内希少野生動植物種 特別：特別国内希少種動植物種 国際：国際希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
「環境省レッドリスト2020」(環境省、令和2年)または「第5次レッドリスト(植物・菌類)」(環境省、令和7年)	環境省 RL	EX：絶滅種 CR：絶滅危惧ⅠA類種 EN：絶滅危惧ⅠB類種 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類種 VU：絶滅危惧Ⅱ類種 NT：準絶滅危惧種 DD：情報不足種 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
「宮崎県レッドリスト2022」(宮崎県、令和4年)	宮崎県 RL2022	EX：絶滅 EX-r：県内では、もともと希であったものが、絶滅。 EX-g：県内では、過去に広く分布、あるいは個体数が多かったと考えられるものが、絶滅。 EX-d：県内で確認されていたもので、過去20年～50年以上信頼のおける情報がないもの。 EW：野生絶滅 EW-r：県内では、もともと希であったものが、野生では絶滅。 EW-g：県内では、過去に広く分布、あるいは個体数が多かったと考えられるものが、野生では絶滅。 EW-d：県内で確認されていたもので、過去20年～50年以上信頼のおける情報がないもの。 CR+EN：絶滅 CR-r：県内では、もともと希であったものが、原則として、現在は1～2か所でのみ生息し、個体数も極めて少ない状態でかろうじて生き残っているもの。 CR-g：県内では、過去に広く分布、あるいは個体数が多かったと考えられるものが、極度に減少して、原則として、1～3か所生息するか、あるいは個体数がほぼ5分の1以下に減少しているもの。 CR-d：それほど遠くない過去(20年～50年以内)の生息の確認情報があるが、その後信頼すべき調査が行われていないか、調査を行ったが未確認のため絶滅したかどうかの判断が困難なもの。今後も確認情報が得られなければ「絶滅(EX)」、あるいは「野生絶滅(EW)」に位置づけられるもの。 EN-r：県内では、もともと希であったものが、原則として、現在は2～4か所でのみ生息し、個体数もかなり少ない状態で生き残っているもの。 EN-g：県内では、過去に広く分布、あるいは個体数が多かったと考えられるものが、原則として、現在は3～5か所で生息するか、あるいは個体数がほぼ2分の1以下に減少しているもの。いずれの生息地でも、生息条件の悪化が継続しており、今後も継続的な減少が予想されるもの。 VU：絶滅危惧Ⅱ類 VU-r：県内では、もともと希であったものが、原則として、現在は5か所以下で生息し、個体数も少ないもの。 VU-g：県内では、過去に広く分布、あるいは個体数が多かったと考えられるものが、原則として、現在は10か所以下で生息するか、あるいは個体数がほぼ5分の4以下に減少しているもの。今後とも大幅に分布が狭まったり、さらなる個体数の減少が予想されるもの。 NT：準絶滅危惧 NT-r：県内では、もともと希であったものが、分布域の一部において個体数が顕著に減少しているもの。 NT-g：県内では、過去に広く分布、あるいは個体数が多かったと考えられるものが、分布域の一部において、生息条件の悪化により絶滅したか、若しくは生息面積の減少や個体数の顕著な減少が見られるもの。 DD：情報不足 DD-1：県内における証拠標本や、信頼のおける記録があり、かつて生息していたと思われるが、現存するかどうか判断できないもので、絶滅の可能性の考えられるもの。確認されれば「絶滅危惧ⅠA類」に位置付けられる可能性の高いもの。 DD-2：県内では、現在明らかに生息しているが、評価するだけの情報が不足しているもの。 OT：その他の保護上重要な種 OT-1：県内において、現在生息条件等が安定しているため「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素はないが、保護上重要と考えられるもの。 OT-2：全県レベルでは重要性の高いものではないが、地域レベルでは保護上重要と考えられるもの。又は生息地が孤立している地域個体群で絶滅の恐れのあるもの。
宮崎県野生動植物の保護に関する条例第11条 (宮崎県、平成18年)	宮崎県 保護条例	希少：指定希少野生動植物

※環境省RLについては植物は第5次レッドリスト、動物はレッドリスト2020を参照しました。